

御拳場境界データを用いた江戸・東京の境界変遷に関する研究

石川和樹・夏目宗幸・中山大地

A Study of Changing Boundary in Edo-Tokyo

Using the Falconry Fields Boundary Data

Kazuki ISHIKAWA, Muneyuki NATSUME and Daichi NAKAYAMA

Abstract: The boundary data of 6 falconry fields for shoguns named “Okobushiba” are published as GIS data by reconstructing these boundary data by old drawing maps. A part of these boundaries performed a function as allotting land in Edo castle town. However, the influence of falconry field boundary on the administrative boundaries in Tokyo in the Meiji and later era still remains unclear. The purpose of this study is to examine the historic changes of boundary of Edo-Tokyo area during Edo period and Meiji era, and to make clear the decision process of boundaries and their difference by comparing the boundary data of falconry fields in Edo period with that of Tokyo 15 wards in Meiji era. As a result, the boundaries in the Edo period and the Meiji era are both mainly based on topography. In addition, the shogunate government also take the location of their main facilities into account of the definition of the boundary in Edo period.

Keywords: 鷹場 (falconry field), 東京市 (Tokyo city), 境界 (boundary)

1. はじめに

近年、歴史的な地理空間データの整備が進んでおり、村山・渡邊（2007）は明治・大正・昭和期の行政界データや統計データを整備・公開しているほか、奥貫ほか（2013）は小地域境界データを基にして、江戸から明治初期にかけての町村域境界データの構築を行っている。

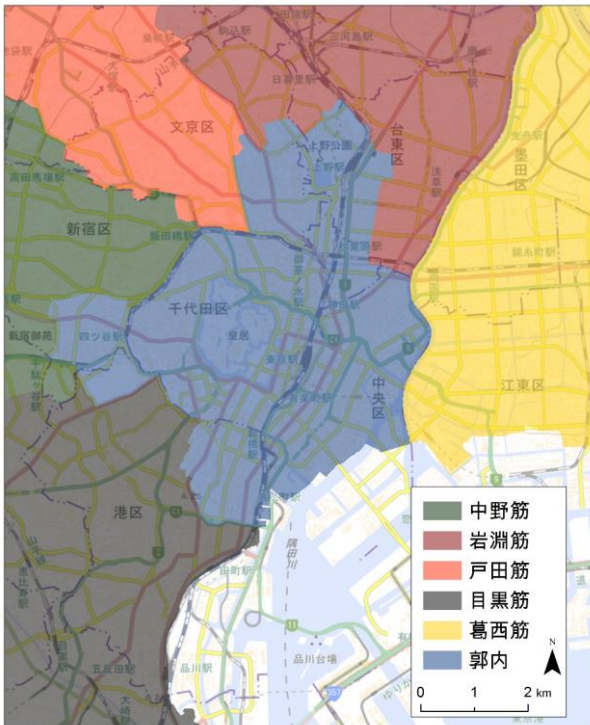
また、夏目ほか（2015）は、2000年の小地域境界データを活用し、御拳場（おこぶしば）に関する2枚の絵図からその境界を復元している。御拳場は江戸幕府が設定した将軍のための鷹場を指し、江戸周辺に6つの地割（筋）として存在して

いた。それらは、鳥見と呼ばれる幕府の役人によって管理されていた。御拳場の地割は当時の支配体制には都合がよく、重要な地割区分であったが、この地割が明治期以降の東京の境界へ影響していることも指摘されている（角川日本地名大辞典編纂委員会編 1988）。しかしこれについて境界を実際に比較するなどの具体的な検証は行われておらず、御拳場とその後の境界との関係性については明らかとなっていない。そこで本研究では、江戸期の御拳場境界データと明治後期の東京市15区境界データを比較し、江戸期から明治期にかけての江戸・東京の境界変遷について示すとともに、江戸幕府と明治政府の境界決定方針にどのような差異があったかを明らかにすることを目的

石川和樹 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京大学院 都市環境科学研究科

E-mail: ishikawa-kazuki@ed.tmu.ac.jp



背景には地理院地図を使用

図1 東京周辺の御拳場

とする。東京市15区は、明治政府成立後の50番組制や大区小区制などの行政区画を経て、1889年に東京府から独立し誕生した。その後周辺地域を編入し東京市35区、さらに整理・統合によって現在の東京23区となる。

2. 使用データと対象地域

2.1 使用データ

本研究で使用したデータは主に御拳場境界データと東京市15区境界データの2種類である。

御拳場境界データ(図1)は、夏目ほか(2015)により1805年作成の「江戸近郊御場絵図」を基に復元されたものである。本データは2000年の小地域の境界データを利用して作成されているため、その境界の形状はその当時の小地域の境界に依存していることに注意が必要である。本データはWeb上で一般に公開されており、だれでも利用が可能である。



背景には地理院地図を使用

図2 東京市15区

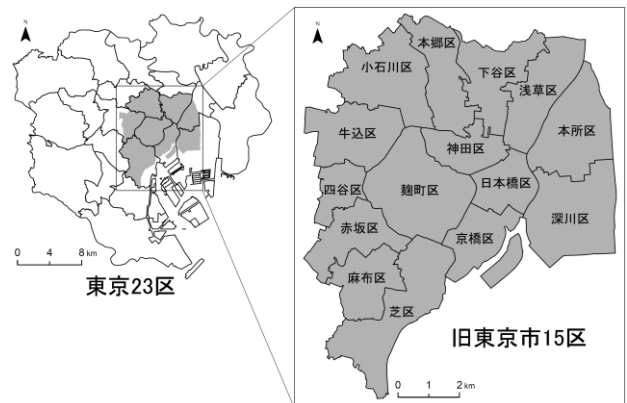


図3 対象地域

東京市15区境界データ(図2)は、石川・中山(2016)により「東京郵便局 東京市十五区番地界入地図 明治40年調査」を基に作成されたもので、1907年当時の東京市15区境界である。

2.2 対象地域

御拳場は広範囲に及ぶものであるが、御拳場の境界がのちの東京の境界に影響しているとされていることから、本研究では、かつての東京市街地である旧東京市15区を対象とする(図3)。

3. 研究手法

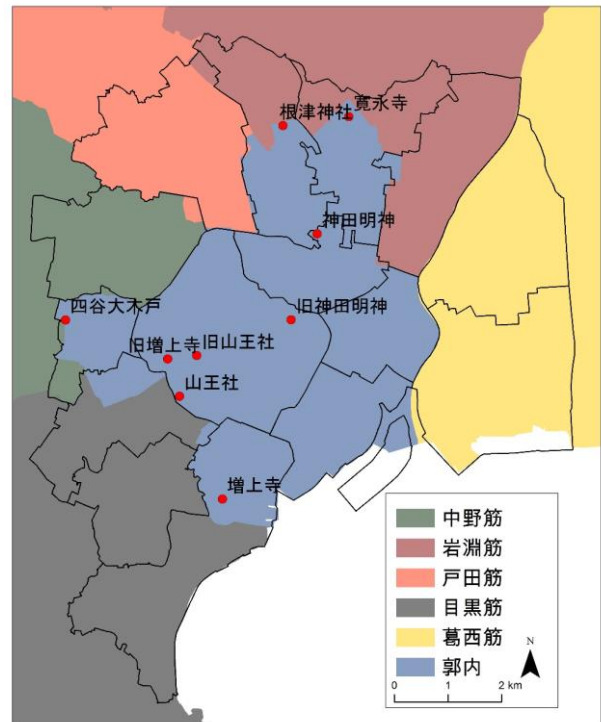
本研究では、江戸期の御拳場境界データと、明治後期の東京市 15 区境界データを重ね合わせることで両者の境界について比較を行う。さらに、その中で特に境界の変化の大きい地域に着目し、その変遷の要因について、文献資料や標高データなどを用いて考察を行う。

4. 結果

図 4 は御拳場境界と東京市 15 区境界を重ねたものである。御拳場六筋のうち、品川筋以外はすべて郭内(市中)に隣接する形で分布しているが、その境界には大きな差異は見られず、両者の境界が一致している地域が多いことがわかる。しかしその中で、大きな違いのある地域がいくつか存在した。江戸期の御拳場境界では、のちの東京市 15 区における芝区の北部、本郷区・下谷区の南部、四谷区に該当する地域が郭内であるとされていたことがわかる。

5. 考察

江戸期に郭内でありながらその後の東京市 15 区の時代になって周辺の区の一部になっている芝区北部、本郷区・下谷区南部、四谷区であるが、これらの地域には当時の江戸幕府に重要な施設が立地していたことが、これらの地域を郭内の一部として境界を設定した要因であると考えられる。図 4 には徳川家に関連する主要施設の位置も示している。徳川家の祈願寺であった寛永寺や、菩提寺であった増上寺のほか、江戸城下町の総鎮守とされた神田明神も江戸幕府にとって重要な施設であった。さらに、境内が五代将軍綱吉の兄綱重の別邸であった根津神社や、甲州街道から江戸に入る際の関所として機能していた四谷大木



内藤 (2007) を参考に作成

図 4 御拳場・東京市 15 区の境界と徳川家に関連する主要施設の分布

戸も、当時の重要な施設であり、これらを含むように郭内が設定されていたと考えられる。

一方、東京市 15 区の境界についてみると、外濠が境界として利用されていることが御拳場の境界と大きく異なる。図 5 はそれぞれの境界と現在の標高データ (5mDEM) を重ねたものであるが、山の手方面では谷に沿って境界が設定されている部分が多い。一方下町では直線的な境界が多いことからわかるように、河川や水路を境界として使用している部分が多い。東京 15 区誕生の際の区画は「大抵古制二則り旧称二遵じ、地形ヲ案シ戸ロヲ計リ土俗人情ノ相依ルモノ等ヲ斟酌シ、区務所・郡務所位置ノ便否ヲ考究シカメテ習慣ニ基キ (東京都 1984)」決定された。すなわち明治政府は、元来からの地域的なまとまりや人々の帰属意識を考慮したうえで、ある程度地形的に境界を設定していたと言える。

これらをまとめると、江戸幕府と明治政府はともに地形を考慮しており、ある程度共通の境界を設定している。しかし、江戸幕府は幕府に関連する施設を含む地域を郭内とするように境界を設定していたことに対し、明治政府は、江戸幕府の境界をある程度踏襲しつつも江戸幕府の重要施設を含むように設定された境界を大きく改変し、外濠などの水路や河川、または谷地形を境界として利用している。そうすることで、境界をだれもが認識しやすく、かつ、警備のしやすさなどから行政の運営上より合理的である境界に設定し直しているといえる。

6. 今後の課題

本研究で使用した御拳場境界データは、平成12年国勢調査小地域境界データを用いて復元されている。そのため区画の変更等の影響により、御拳場境界データの精度にも影響していることを夏目（2015）でも指摘している。本研究では御拳場と東京市15区の境界に明らかな差異のある地域のみについて言及したが、今後はより詳細な境界の比較・分析が必要になるだろう。御拳場境界データの精度向上のためにも、異なる資料や手法を用いて境界の復元を行うことが必要である。また、本研究は単純に境界を比較した結果を基に、文献等を用いて考察を行ったのみにとどまるため、今後は境界の変遷について定量的な把握を試みる必要がある。さらに、今回の比較は東京市15区に限定されているが、御拳場の範囲は広範囲に及ぶため、本研究では扱わなかった地域についても境界を比較するなどして境界の変遷や継承について検討する必要がある。

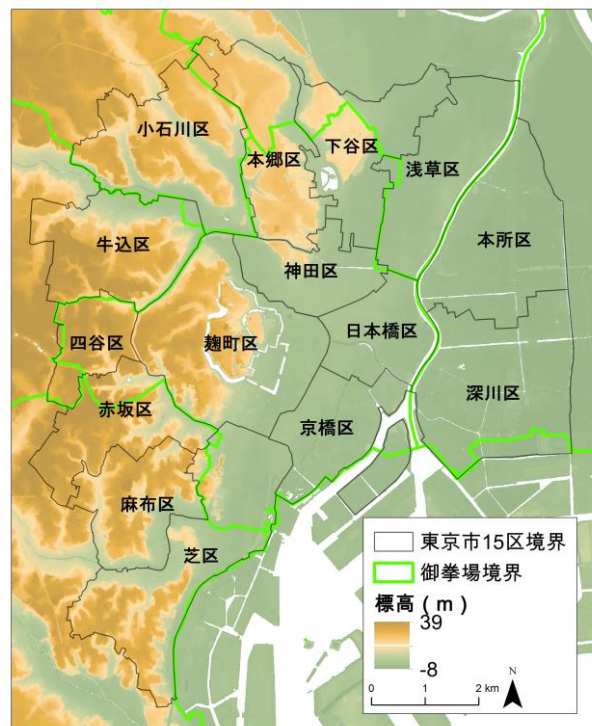


図5 境界と標高データの比較

参考文献

- 石川和樹・中山大地（2016）：明治期東京におけるアドレスマッチングシステムの構築，日本地理学会春季学術大会発表要旨集 89：118.
- 奥貫圭一・溝口常俊・森田匡俊・服部亜由未・平松晃一（2013）：明治初期の村ポリゴンデータの作成とその分析，地理情報システム学会講演論文集 22：B-1-5 (CD-ROM).
- 角川日本地名大辞典編纂委員会（編）（1988）：『角川日本地名大辞典 13 東京都』，角川書店.
- 東京都（1984）：『都市紀要三十 市制町村制と東京』，東京都.
- 内藤正敏（2007）：『江戸・王権のコスモロジー』，法政大学出版会.
- 夏目宗幸・原 裕太・浅野悟史（2015）：御拳場六筋の復元—国勢調査小地域境界データを活用して—，GIS-理論と応用 23（2）：43-52.
- 村山祐司・渡邊敬逸（2007）：歴史地域統計データの整備と今後の課題，人文地理学研究（筑波大学大学院生命環境科学研究科地球環境科学専攻編） 31：115-132.